

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473600417
法人名	社会福祉法人誠幸会
事業所名	グループホーム泉の郷
訪問調査日	2017年8月30日
評価確定日	2017年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600417	事業の開始年月日	平成13年10月1日
		指定年月日	平成13年10月1日
法人名	社会福祉法人誠幸会		
事業所名	グループホーム泉の郷		
所在地	(245-0018) 横浜市泉区上飯田町1221		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	平成29年8月11日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度より法人理念が変わりました。理念にある「かかわる全ての人の喜び」につながる支援を目指しています。
 また事業所の目標として「原点回帰」を掲げ、認知症高齢者グループホームの本来の役割を改めて考え、当たり前の支援が当たり前を提供できる事を目標としています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年8月30日	評価機関 評価決定日	平成29年9月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、社会福祉法人誠幸会の経営です。同法人は、横浜市泉区に本部をおき、横浜市内を中心に「高齢者介護・障がい者支援・保育」を3本の柱として、様々な福祉サービスを展開しています。グループホームは、ここ「泉の郷」を含めて神奈川県で5か所を運営しています。グループホーム泉の郷は、相鉄いずみの線「いずみ中央駅」からバスに乗り「児童公園前」で下車して、徒歩2分程の場所に位置しています。事業所周辺は閑静な住宅地であり、近くには境川も流れています。事業所は鉄筋コンクリート2階建て、1階には協力医療機関である、湘南お茶の水クリニックとグループホームの1ユニット、2階にはグループホームが2ユニットある造りになっており、1階部分にクリニックが併設されている3ユニットで構成されている事業所です。

●事業所の目標は、今年度から変更になった法人の理念「かかわる全ての人の喜び 地域社会の中で価値ある総合福祉法人を目指す」に沿って「回帰原点」を掲げています。本来の役割を改めて考え、「①個人の尊厳②心身の健康保持、安らかな生活保持③社会的な関わりの増進④地域社会への貢献⑤専門性と創造性のある援助」等の支援を当たり前提供できる事を目指し、この目標を作成しました。これらを踏まえ、法人の方針である『利用者のニーズに合った質の高いサービスと満足の提供、感謝の返礼』に沿って、事業所では、地域と共に暮らす事を大切に初心に帰った支援に、日々、取り組んでいます。

●ケアについては、その人らしい暮らしを続ける為の支援として、その方に残された能力に見合った役割(掃除、布巾掛け等)を担ってもらい、利用者本位の自立に向けた支援と共に、散歩やレクや体操などのアクティビティも積極的に取り入れて、利用者のADLの維持に努めています。また、地域交流では防災訓練への参加、町内の「ふれあいサロン」への招待を頂き参加している他、近隣中学生の体験学習の受け入れも積極的に行い、地域交流を深めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム泉の郷
ユニット名	ほほえみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より理念が変わり、朝にミーティング時に唱和することは継続して意識を高めて実践につなげている。また行動規範もできたため具体的に何を大切にしていこうかも職員にわかりやすくなった。	今年度から変更になった法人の理念「かかわる全ての人の喜び 地域社会の中で価値ある総合福祉法人を目指す」を朝のミーティング時に唱和し、全職員が共有認識を図っています。また、事業所の方針を「原点回帰」とし、従来当たり前として行って来た様々な支援を再確認して、行動規範に則り日々のケアで実践出来ているかを振り返りながら、目標の実現に向けて取り組んでいます。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方とは町内会を通じて定期的に交流をしている。近隣の中学生の体験学習なども受け入れを行い交流している。また庭の花木を眺めに来られる方も増えており、事業所の存在が知られるようになっている。	近隣住民の方と共に自治会の定期避難訓練への参加をはじめとして、近隣中学生の体験学習の受け入れや、散歩時の挨拶交換の他、町内会を通じての交流もあり、地域の一員としての周囲の方から支えられると共に、日常的に地域交流が行われています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の町内会の定例会や防災訓練などに参加しホームへの理解などを求めている。運営推進会議では地域に向けて認知症に関する情報を発信。回覧板で情報を流せるようにできないか検討中。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、年6回開催（現在2回）している。地域の方のご意見を参考にサービス向上につながりようにと考えている。地域の方もより良いサービスとなるように積極的にご意見をくださっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域代表の方、泉区の高齢福祉課職員、ケアプラザ相談員、利用者家族、施設長の参加で開催しています。会議では事業所の運営状況と今後の運営に関する思いや行事予定などを報告し、参加者の方々からも意見を伺い、サービスの向上に繋がっています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人を指定いただけていることもあり高齢支援課や生活支援課、生活衛生課、や消防とも相談しやすい関係を保っている	生活保護受給者の日常生活状況や体調などについて泉区の保護担当者と連絡を密にしながら協力関係を構築しています。区の関係窓口の高齢支援課、生活支援課、生活衛生課は下より、消防をはじめ警察、地域の方々との連携にも注力して、積極的に協力関係を築くように取り組んでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の方針にあるように身体拘束は行っていない。玄関の施錠は夜間のみとしている。危険がない限り、言葉での抑制が無いように注意、指導している。	法人の方針にも個人の尊厳、心身の健康保持、安らかな生活保持を掲げています。法人の年間研修計画に基づき、身体拘束・虐待禁止について職員は正しい理解と知識を身につけています。事業所では特に言葉での行動抑止等で利用者様の思いを損ねない様に注意し、拘束・虐待の禁止行為とそのデメリットが職員間で共有認識しています。玄関施錠は夜間のみ、防犯の関係上行うことを家族に説明し、了解を得て施錠しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修・ホームの内部研修などを通じて虐待に関する勉強会を実施。「ご本人が不快、苦痛を感じる」事はどんなことでも虐待につながりやすいことを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内部研修、ホームの内部研修を通じて権利擁護の勉強会を実施。認証高齢者の権利擁護について、侵害されやすい権利について、何気なくしている事が権利侵害になりやすい可能性があることなどを確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書に沿って説明し、理解していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者やご家族からの要望や苦情はすぐに管理者に報告が上がるようにしている。また必要に応じて法人施設長へと報告している。ご入居者の要望についてはケアプラン更新の際に本人に伺うようにしている。	利用契約時に重要事項9に記された苦情相談窓口と、契約書23条に記された内容に沿ってその対応について説明しています。家族には面会時や電話などで、生活状況等の報告等でコミュニケーションを密にし、意見等も伺っています。内容については、必要に応じて管理者から法人施設長へ報告する体制を採っています。法人では、毎年1回利用者満足度調査も実施しています。利用者の要望についてはケアプラン更新時に本人に希望等を伺っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望はいつでも聞くことができるように心がけている。職員側も積極的に意見をしてくれている。1年に1度自己申告書にて施設長などに直接意見や提案を行える機会を設けている。また会議の場でも意見を言えるよぶにしている。	事業所では毎月開催される職員会議の場を通じて、日々の観察に基づく気づきや意見提案等が自由に言えるようになっていきます。また、管理者と職員間は日頃から気軽に話せる関係も構築されており、要望等は普段からも聞いています。年に1回は自己申告書にて施設長などに直接提案が出来る機会を設け、意見を収集しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給と賞与時の年3回の評価で、個々の努力や実績を評価している。要望に於応じて評価内容の開示もしている。職員個々に目標を持って働いてもらえるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修（介護の基礎、医療面など）ホーム内での内部研修（認知症介護に特化したもの、人材育成など）を実施。ホーム内研修は昨年度から継続して実施し支援力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は県や市、他県の同業者とのネットワークがある。職員同士の直接交流はないが、年度末には区内のホームが集まる機会もあり交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接、入居時にご本人の意向を伺いケアプランに反映することで全職員が共有できるようにしている。意向を伺う際にも今困っていること、これからどんな生活をしたいか等具体的に伺い用いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接入居時に意向を伺い必要に応じて相談援助を行っている。入居される前の段階でもご家族からの相談にお答えした実績もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームだけを勧めるのではなくその方に適したサービスに関してはご説明して提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中心はご入居者本人であることを理解し、出来る事できないことをきちんと見極めて支援するよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時には極力ご家族にお願いしている。また、衣類の購入、廃棄などにもその都度ご家族と連絡を取り関係性の継続に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にもご友人との面会や電話での会話、手紙のやり取りなど自由にできるようにしている。隣家の床屋さんを利用することでこの地域での馴染みも出来ている。	利用者がこれまでに大切にして来た馴染みの人との関係が途切れることの無いように、面会や電話の取り次ぎ等の支援も行っています。また、利用者が近くの床屋さんやお店を利用することで、近所との馴染みの関係が築けるようにしています。家族の協力も得て、外食、外泊等に出かけている方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の相互関係を見極めながら支援している。入居者同士お互いに支え合おうとする姿も多く見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時法人内サービスの移行があれば相互の情報提供を行っている。たサービスへの移行時にも次のサービスが決まるまでは相談、支援に努める。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	支障のない程度に使い慣れた家具類などの居室への設置を受け入れている。ご本人にとって必要な支援がどのような事であるかを見極めながら検討している。	アセスメントから生活歴などを基に日々の関わりの中で、本人の今の思いを把握するように努めています。コミュニケーションの取りにくい利用者とは、思いを知る事が難しく、仕草や表情からの汲み取りと、家族からの情報を加味して押し量り、支援に努めています。また、モニタリングで本人の思いに沿えているか、必要な支援は何かを確認しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表、面接報告書などにて生活、サービス利用を把握している。不明な点は入居後の会話などから把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	まずはご本人の普段の状態を把握することから始まり、バイタルチェックや食事摂取量、表情や言動の些細な変化を見逃さない様に努めている。また、週1回の看護師の訪問、随時相談により状態変化の早急な対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多角的な視点から物事が見られるようにホーム内研修では視点を大切にされた内容でアセスメント能力の向上に取り組んでいる。	変化のある場合は都度の見直しを原則として、多角的な視点から物事が見られるように視点を大切にされた研修を事業所内で行い、職員のアセスメント能力の向上に取り組んでいます。職員の日々の観察に基づく意見、家族の要望等も伺って、計画作成者を中心に介護計画を作成しています。概ね6ヶ月毎に見直しを行い、モニタリングで、その方の残存能力や現状の介護計画とのズレが生じないように支援しています。	継続した取り組み
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の気づきが多いが共有しきれていない点が課題。日々の申し送り表などを活用し情報共有ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2+3=□と考えるのではなく答えが5になる計算式を考える視点が持てるようにしている。可能性を決めつけるのではなく何を支援すれば出来るようになるかを前提に考えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人本部に近いこともあり法人のネットワークや指導者間のネットワークを通じて相談している。多様なニーズに対応できるように各専門職の知識をお借りし、地域資源を活用できるようにと考えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはホームの協力病院をかかりつけ医として紹介させていただいている。ご本人やが家族の要望に応じてどの医療機関でも受診できるように支援させていただいている。	契約時にかかりつけ医の有無や希望を伺っています。内科は看護師を伴って月1回の往診の他、緊急時の対応と重篤時には総合病院への紹介状を書いて頂いています。また、本部の看護師も週1度の訪問があり、近隣医との連携しながら、適切な医療が受けられるよう支援しています。従来のかかりつけ医や外部の医療機関で受診する場合には家族対応を原則とし、必要情報の提供と受診結果を共有しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部看護師が1週間に1度訪問している。緊急時には本部看護師はもちろん、近隣医の救急外来に電話相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	入院時には介護サマリーを作成し情報提供している。ご家族や病院関係者と連携し早期退院の調整や情報交換を行うように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で延命治療に関する意思確認を書いている。また入居者の状況も多様化している為、状況に合わせた同意書も作成している。身体的に重度になってきた場合には特養申し込みをお願いしている。また、入院になった場合などには退去の要件などをしっかりと説明するようにしている。	重度化した場合の方針については入居契約時に延命治療に関する意思確認書を書いて頂いた後に、事業所で出来ること、出来ない事を家族・後見人に説明して同意書を交わしています。また、身体的に重度化してきた場合には特養の申し込みをお願いしています。入院になった場合には退去の要件などをしっかりと説明をして、入居者要望の多様化するの中、指針に沿った対応、体制が整えられています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて心肺蘇生法を実施。また、急変時の兆候やその時々状況に応じて注意すべき点などを看護師の訪問時に確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの整備を行うために防災担当職員を設置。風水害も含くめたマニュアルも完成した。年3回を目標に災害避難訓練を行っている。	風水害を含めた防災マニュアルの完成と共に防災担当職員を配置し、年3回を目標に、地域の方にも参加をいただきながら、避難訓練を実施しています。自治会主催の災害避難訓練には職員・利用者共に参加して連携を密にしています。非常用備蓄も食料・水は40人×3日を目安として・乾電池・オムツなどの衛生用品も確保しています。地域との間で災害時協力体制も構築しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースに職員が合わせ、利用者のプライバシーを損ねるような対応は行っていない。	「言葉遣いの乱れ」や「職員の都合に合わせた生活リズムの強要」は不適切支援に繋がる事を職員間で共有し人格を尊重して、入居者の身になり誇りやプライバシーを損ねる事の無いよう、対応と言葉遣いに留意しています。呼称は「さん」付けを基本にしていますが、時には親しみをもった本人の希望も取り入れての対応も行っています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の活動、会話全てにおいて個々の利用者に合わせて分かりやすく説明し、利用者の意向を大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペース、生活を大切にし、安全にそして希望に沿った支援が行える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は希望者の意向に沿って行っている。また、希望に合わせて近くの理容室、美容院に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が付きサポートしている。食材の下処理や配膳、テーブル拭き、食器洗いの手伝いなどをして頂いている。また、メニューに季節の旬のものを採り入れ召し上がって頂いている。	食材はレシピ付きで業者に発注し、職員が調理しています。季節に合わせた旬の物や、時には夫々の好みもリクエストしてメニューに取り入れて頂いています。出来る人には食卓拭き、下膳、片付け、などを手伝って頂き役割をこなす事で喜びと能力の維持に繋がっています。各テーブルには必ず職員が付き食事介助を行いながら、利用者のペースに合わせて食事支援を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食一人ひとり記録している。また水分摂取量においても一人ひとり把握し、好きな飲み物を提供し1日トータル量を確保するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	人いひとりひとりのコップ、歯ブラシを用意し、毎食後声かけや職員介助で口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意を感じ無くなった方、あるいは見当識障害のある利用者にはトイレ誘導を行っている。また声掛けでわかる方にはご本人と時間を決めて声掛け誘導を行っている。	排泄チェック表のデーターを基に、一人ひとりに合ったトイレ誘導を行っています。声掛けで理解のできる方には時間を決めて誘導し、尿意が感じられなくなった方や見当識障害のある利用者には手引きでトイレ誘導を行っています。また、入院等でリハパンやオムツになった利用者には、トイレでの排泄を促しながら極力外せるように支援しています。失敗した際には、他の人の目に触れない配慮の下に下着交換の支援を行い、経済的、精神、衛生的にも負担が多いオムツの使用を無くした生活に向けて注力しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続く方には牛乳やヨーグルトを提供したり、野菜や水分量を増やしたり、散歩など適度な運動を進めるなどの工夫をしている。また医療機関で下剤を処方して頂く等している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を希望される方には入浴していただいている。入浴したいと訴えの無い方には声掛けをしているが無理強いはず、出来利限り本人の体調に合わせて、希望する日、時間に入浴していただいている。	通常は希望やタイミングに合わせた入浴をして頂いています。あまり気の進まない方にも入浴時の観察で、打ち身・あざ・湿疹などの発見もある事を踏まえて、決して無理強いはず、本人の体調、希望する日、時間を見計らって入浴を促し、最低でも週2,3回は入浴できるように支援しています。季節のゆず湯、菖蒲湯なども採り入れ楽しめるように工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、ペースを大切に、落ち着ける場所で休息が取れるようにしている。不安感が強い時は側で寄り添い、傾聴するなどマンツーマンの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療情報ノート、内服薬情報のファイルを作成し利用者一人一人の薬の情報が直ぐ分かるようにしている。また、薬の変更があった場合は職員全員に分かりやすいようにし利用者の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中の出来る事はご自分で行って頂き、声掛けで家事仕事なども手伝って頂いている。また、散歩の好きな方とは散歩に出かけ、甘いものが好きな方にはお菓子の提供をするなど個別にも行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の時間を設け、気分転換を図りたい方には声掛けをし外に出る機会を設けるようにしている。また散歩の時間以外にも希望を聞きながら外に出る機会を増やすようにしている。	散歩の時間を設けて、天気のいい日には声掛けをして近くの散歩コースに出かけたり、ベランダや庭での外気浴等も取り入れています。また、散歩時間外にも希望があれば対応し外出が出来るように心掛けています。その他、家族の訪問時に近隣の散歩や車でドライブを兼ねての外出に行かれる方など、家族の協力も得ながら外出支援を行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々利用者がお金を管理する事は困難であるが、ご本人の希望に応じて職員や家族と共に買い物をして頂くように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてホームの電話を利用して頂けるようにしており、職員が随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にはソファがあり絵画やカレンダー、季節の花を飾るなどしてくつろぐことの出来る空間作りをしている。また浴室横の脱衣所の湿度管理には冬は暖房器具、夏は扇風機を使用し気を付けている。	清掃の行き届いた館内は騒音や異臭も無く適度な湿度・温度管理が行われ、特に脱衣所には季節に合わせた冷暖対応が行われています。廊下にソファが置かれ、絵画やカレンダーの他、季節の花等も生け、安らぎと寛が感じられる空間作りがされています。壁面には皆で作成した季節感のある作品が掲示され、その他行事時の写真なども全体バランスを考慮しながら飾られています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには利用者一人一人の決まった椅子がある一方で、ソファなどを配置し、気分の合った利用者同士で座って話が出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には居室にはご本人が使用してきた物や好きな物を置いて頂くようにしている。状況に応じて危険や混乱が伴うような場合には家族と相談のうえ、持ち帰って頂く等配慮している。	「急激な環境変化を防ぐ意味から慣れ親しんだ自宅での生活の延長」というコンセプトを持って、使い慣れた家具などを持ち込んで頂く事をお勧めしています。但し状況に応じて危険や混乱が伴う事態が起きた場合は持ち帰っていただく配慮も行いつつ、大切にしてきた、鏡台、位牌や写真などが持ち込まれ、夫々馴染んだ生活拠点が演出されています。また居室にはクローゼット、カーテン、エアコンが備えられていて、各人好みの設えで居心地よく過ごせるよう支援しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに「トイレ」と大きく表示したり、居室のドアに名前を表示している。また、リビングの椅子に馴染みの座布団を置いて分かりやすくしている方もいる。混乱が見られる場合はさりげなく介助が出来るようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 泉の郷

作成日

平成29年8月30日

〔目標達成計画〕

(ほほえみ)

(のぞみ)

(ふれあい)

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	アセスメントの視野が狭く、 事象をそのまま受け止めてしま う	言動に意味を考え、ニーズを 的確に把握し支援につなげら れる	①定期的な勉強会によるスキル アップ ②0JTやミーティングを通じて 考え方の基本を身につける	1年
2	27	気付きは多いものの支援に結 びつかないことがある	気付きや予兆行動からこの先 どうなるかを考えて支援でき るようになる	①定期的な勉強会によるスキル アップ ②0JTやミーティングを通じて 考え方の基本を身につける	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム 泉の郷
ユニット名	のぞみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より理念が変わり、朝にミーティング時に唱和することは継続して意識を高めて実践につなげている。また行動規範もできたため具体的に何を大切にしていこうかも職員にわかりやすくなった。	今年度から変更になった法人の理念「かかわる全ての人の喜び 地域社会の中で価値ある総合福祉法人を目指す」を朝のミーティング時に唱和し、全職員が共有認識を図っています。また、事業所の方針を「原点回帰」とし、従来当たり前として行って来た様々な支援を再確認して、行動規範に則り日々のケアで実践出来ているかを振り返りながら、目標の実現に向けて取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方とは町内会を通じて定期的に交流をしている。近隣の中学生の体験学習なども受け入れを行い交流している。また庭の花木を眺めに来られる方も増えており、事業所の存在が知られるようになっている。	近隣住民の方と共に自治会の定期避難訓練への参加をはじめとして、近隣中学生の体験学習の受け入れや、散歩時の挨拶交換の他、町内会を通じての交流もあり、地域の一員としての周囲の方から支えられると共に、日常的に地域交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の町内会の定例会や防災訓練などに参加しホームへの理解などを求めている。運営推進会議では地域に向けて認知症に関する情報を発信。回覧板で情報を流せるようにできないか検討中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、年6回開催（現在2回）している。地域の方のご意見を参考にサービス向上につながりようにと考えている。地域の方もより良いサービスとなるように積極的にご意見をくださっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域代表の方、泉区の高齢福祉課職員、ケアプラザ相談員、利用者家族、施設長の参加で開催しています。会議では事業所の運営状況と今後の運営に関する思いや行事予定などを報告し、参加者の方々からも意見を伺い、サービスの向上に繋がっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人を指定いただけていることもあり高齢支援課や生活支援課、生活衛生課、や消防とも相談しやすい関係を保っている	生活保護受給者の日常生活状況や体調などについて泉区の保護担当者と連絡を密にしながら協力関係を構築しています。区の関係窓口の高齢支援課、生活支援課、生活衛生課は下より、消防をはじめ警察、地域の方々との連携にも注力して、積極的に協力関係を築くように取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の方針にあるように身体拘束は行っていない。玄関の施錠は夜間のみとしている。危険がない限り、言葉での抑制が無いように注意、指導している。	法人の方針にも個人の尊厳、心身の健康保持、安らかな生活保持を掲げています。法人の年間研修計画に基づき、身体拘束・虐待禁止について職員は正しい理解と知識を身につけています。事業所では特に言葉での行動抑止等で利用者様の思いを損ねない様に注意し、拘束・虐待の禁止行為とそのデメリットが職員間で共有認識しています。玄関施錠は夜間のみ、防犯の関係上行うことを家族に説明し、了解を得て施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修・ホームの内部研修などを通じて虐待に関する勉強会を実施。「ご本人が不快、苦痛を感じる」事はどんなことでも虐待につながりやすいことを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内部研修、ホームの内部研修を通じて権利擁護の勉強会を実施。認証高齢者の権利擁護について、侵害されやすい権利について、何気なくしている事が権利侵害になりやすい可能性があることなどを確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書に沿って説明し、理解していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者やご家族からの要望や苦情はすぐに管理者に報告が上がるようにしている。また必要に応じて法人施設長へと報告している。ご入居者の要望についてはケアプラン更新の際に本人に伺うようにしている。	利用契約時に重要事項9に記された苦情相談窓口と、契約書23条に記された内容に沿ってその対応について説明しています。家族には面会時や電話などで、生活状況等の報告等でコミュニケーションを密にし、意見等も伺っています。内容については、必要に応じて管理者から法人施設長へ報告する体制を採っています。法人では、毎年1回利用者満足度調査も実施しています。利用者の要望についてはケアプラン更新時に本人に希望等を伺っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望はいつでも聞くことができるように心がけている。職員側も積極的に意見をしてくれている。1年に1度自己申告書にて施設長などに直接意見や提案を行える機会を設けている。また会議の場でも意見を言えるよぶにしている。	事業所では毎月開催される職員会議の場を通じて、日々の観察に基づく気付きや意見提案等が自由に言えるようになっていきます。また、管理者と職員間は日頃から気軽に話せる関係も構築されており、要望等は普段からも聞いています。年に1回は自己申告書にて施設長などに直接提案が出来る機会を設け、意見を収集しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給と賞与時の年3回の評価で、個々の努力や実績を評価している。要望に於応じて評価内容の開示もしている。職員個々に目標を持って働いてもらえるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修（介護の基礎、医療面など）ホーム内での内部研修（認知症介護に特化したもの、人材育成など）を実施。ホーム内研修は昨年度から継続して実施し支援力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は県や市、他県の同業者とのネットワークがある。職員同士の直接交流はないが、年度末には区内のホームが集まる機会もあり交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接、入居時にご本人の意向を伺いケアプランに反映することで全職員が共有できるようにしている。意向を伺う際にも今困っていること、これからどんな生活をしたいか等具体的に伺い用いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接入居時に意向を伺い必要に応じて相談援助を行っている。入居される前の段階でもご家族からの相談にお答えした実績もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームだけを勧めるのではなくその方に適したサービスに関してはご説明して提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中心はご入居者本人であることを理解し、出来る事できないことをきちんと見極めて支援するよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時には極力ご家族にお願いしている。また、衣類の購入、廃棄などにもその都度ご家族と連絡を取り関係性の継続に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にもご友人との面会や電話での会話、手紙のやり取りなど自由にできるようにしている。隣家の床屋さんを利用することでこの地域での馴染みも出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の相互関係を見極めながら支援している。入居者同士お互いに支え合おうとする姿も多く見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時法人内サービスの移行があれば相互の情報提供を行っている。たサービスへの移行時にも次のサービスが決まるまでは相談、支援に努める。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	支障のない程度に使い慣れた家具類などの居室への設置を受け入れている。ご本人にとって必要な支援がどのような事であるかを見極めながら検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表、面接報告書などにて生活、サービス利用を把握している。不明な点は入居後の会話などから把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	まずはご本人の普段の状態を把握することから始まり、バイタルチェックや食事摂取量、表情や言動の些細な変化を見逃さない様に努めている。また、週1回の看護師の訪問、随時相談により状態変化の早急な対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多角的な視点から物事が見られるようにホーム内研修では視点を大切にしながら内容でアセスメント能力の向上に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の気づきが多いが共有しきれていない点が課題。日々の申し送り表などを活用し情報共有ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2+3=□と考えるのではなく答えが5になる計算式を考える視点が持てるようにしている。可能性を決めつけるのではなく何を支援すれば出来るようになるかを前提に考えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人本部に近いこともあり法人のネットワークや指導者間のネットワークを通じて相談している。多様なニーズに対応できるように各専門職の知識をお借りし、地域資源を活用できるように考えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはホームの協力病院をかかりつけ医として紹介させていただいている。ご本人やが家族の要望に応じてどの医療機関でも受診できるように支援させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部看護師が1週間に1度訪問している。緊急時には本部看護師はもちろん、近隣医の救急外来に電話相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	入院時には介護サマリーを作成し情報提供している。ご家族や病院関係者と連携し早期退院の調整や情報交換を行うように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で延命治療に関する意思確認を書いて頂いている。また入居者の状況も多様化している為、状況に合わせた同意書も作成している。身体的に重度になってきた場合には特養申し込みをお願いしている。また、入院になった場合などには退去の要件などをしっかりと説明するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて心肺蘇生法を実施。また、急変時の兆候やその時々状況に応じて注意すべき点などを看護師の訪問時に確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの整備を行うために防災担当職員を設置。風水害も含くめたマニュアルも完成した。年3回を目標に災害避難訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースに職員が合わせ、利用者のプライバシーを損ねるような対応は行っていない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の活動、会話全てにおいて個々の利用者に合わせて分かりやすく説明し、利用者の意向を大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペース、生活を大切にし、安全にそして希望に沿った支援が行える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は希望者の意向に沿って行っている。また、希望に合わせて近くの理容室、美容院に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が付きサポートしている。食材の下処理や配膳、テーブル拭き、食器洗いの手伝いなどをして頂いている。また、メニューに季節の旬のものを採り入れ召し上がって頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食一人ひとり記録している。また水分摂取量においても一人ひとり把握し、好きな飲み物を提供し1日トータル量を確保するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	人いひとりひとりのコップ、歯ブラシを用意し、毎食後声かけや職員介助で口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意を感じ無くなった方、あるいは見当識障害のある利用者にはトイレ誘導を行っている。また声掛けでわかる方にはご本人と時間を決めて声掛け誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続く方には牛乳やヨーグルトを提供したり、野菜や水分量を増やしたり、散歩など適度な運動を進めるなどの工夫をしている。また医療機関で下剤を処方して頂く等している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を希望される方には入浴していただいている。入浴したいと訴えの無い方には声掛けをしているが無理強いはず、出来利限り本人の体調に合わせ、希望する日、時間に入浴していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、ペースを大切に、落ち着ける場所で休息が取れるようにしている。不安感が強い時は側で寄り添い、傾聴するなどマンツーマンの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療情報ノート、内服薬情報のファイルを作成し利用者一人一人の薬の情報が直ぐ分かるようにしている。また、薬の変更があった場合は職員全員に分かりやすいようにし利用者の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中の出来る事はご自分で行って頂き、声掛けで家事仕事なども手伝って頂いている。また、散歩の好きな方とは散歩に出かけ、甘いものが好きな方にはお菓子の提供をするなど個別にも行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の時間を設け、気分転換を図りたい方には声掛けをし外に出る機会を設けるようにしている。また散歩の時間以外にも希望を聞きながら外に出る機会を増やすようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々利用者がお金を管理する事は困難であるが、ご本人の希望に応じて職員や家族と共に買い物をして頂くように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてホームの電話を利用して頂けるようにしており、職員が随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にはソファがあり絵画やカレンダー、季節の花を飾るなどしてくつろぐことの出来る空間作りをしている。また浴室横の脱衣所の湿度管理には冬は暖房器具、夏は扇風機を使用し気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには利用者一人一人の決まった椅子がある一方で、ソファなどを配置し、気分の合った利用者同士で座って話が出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には居室にはご本人が使用してきた物や好きな物を置いて頂くようにしている。状況に応じて危険や混乱が伴うような場合には家族と相談のうえ、持ち帰って頂く等配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに「トイレ」と大きく表示したり、居室のドアに名前を表示している。また、リビングの椅子に馴染みの座布団を置いて分かりやすくしている方もいる。混乱が見られる場合はさりげなく介助が出来るようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 泉の郷

作成日

平成29年8月30日

〔目標達成計画〕

(ほほえみ)

(のぞみ)

(ふれあい)

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	アセスメントの視野が狭く、 事象をそのまま受け止めてしま う	言動に意味を考え、ニーズを 的確に把握し支援につなげら れる	①定期的な勉強会によるスキル アップ ②OJTやミーティングを通じて 考え方の基本を身につける	1年
2	27	気付きは多いものの支援に結 びつかないことがある	気付きや予兆行動からこの先 どうなるかを考えて支援でき るようになる	①定期的な勉強会によるスキル アップ ②OJTやミーティングを通じて 考え方の基本を身につける	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム 泉の郷
ユニット名	ふれあい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より理念が変わり、朝にミーティング時に唱和することは継続して意識を高めて実践につなげている。また行動規範もできたため具体的に何を大切にしていこうかも職員にわかりやすくなった。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方とは町内会を通じて定期的に交流をしている。近隣の中学生の体験学習なども受け入れを行い交流している。また庭の花木を眺めに来られる方も増えており、事業所の存在が知られるようになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の町内会の定例会や防災訓練などに参加しホームへの理解などを求めている。運営推進会議では地域に向けて認知症に関する情報を発信。回覧板で情報を流せるようにできないか検討中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、年6回開催（現在2回）している。地域の方のご意見を参考にサービス向上につながりようにと考えている。地域の方もより良いサービスとなるように積極的にご意見をくださっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人を指定いただけていることもあり高齢支援課や生活支援課、生活衛生課、や消防とも相談しやすい関係を保っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の方針にあるように身体拘束は行っていない。玄関の施錠は夜間のみとしている。危険がない限り、言葉での抑制が無いように注意、指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修・ホームの内部研修などを通じて虐待に関する勉強会を実施。「ご本人が不快、苦痛を感じる」事はどんなことでも虐待につながりやすいことを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内部研修、ホームの内部研修を通じて権利擁護の勉強会を実施。認証高齢者の権利擁護について、侵害されやすい権利について、何気なくしている事が権利侵害になりやすい可能性があることなどを確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書に沿って説明し、理解していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者やご家族からの要望や苦情はすぐに管理者に報告が上がるようにしている。また必要に応じて法人施設長へと報告している。ご入居者の要望についてはケアプラン更新の際に本人に伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望はいつでも聞くことができるように心がけている。職員側も積極的に意見をしてくれている。1年に1度自己申告書にて施設長などに直接意見や提案を行える機会を設けている。また会議の場でも意見を言えるよぶにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給と賞与時の年3回の評価で、個々の努力や実績を評価している。要望に於応じて評価内容の開示もしている。職員個々に目標を持って働いてもらえるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修（介護の基礎、医療面など）ホーム内での内部研修（認知症介護に特化したもの、人材育成など）を実施。ホーム内研修は昨年度から継続して実施し支援力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は県や市、他県の同業者とのネットワークがある。職員同士の直接交流はないが、年度末には区内のホームが集まる機会もあり交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接、入居時にご本人の意向を伺いケアプランに反映することで全職員が共有できるようにしている。意向を伺う際にも今困っていること、これからどんな生活をしたいか等具体的に伺い用いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接入居時に意向を伺い必要に応じて相談援助を行っている。入居される前の段階でもご家族からの相談にお答えした実績もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームだけを勧めるのではなくその方に適したサービスに関してはご説明して提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中心はご入居者本人であることを理解し、出来る事できないことをきちんと見極めて支援するよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時には極力ご家族にお願いしている。また、衣類の購入、廃棄などにもその都度ご家族と連絡を取り関係性の継続に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にもご友人との面会や電話での会話、手紙のやり取りなど自由にできるようにしている。隣家の床屋さんを利用することでこの地域での馴染みも出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の相互関係を見極めながら支援している。入居者同士お互いに支え合おうとする姿も多く見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時法人内サービスの移行があれば相互の情報提供を行っている。たサービスへの移行時にも次のサービスが決まるまでは相談、支援に努める。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	支障のない程度に使い慣れた家具類などの居室への設置を受け入れている。ご本人にとって必要な支援がどのような事であるかを見極めながら検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表、面接報告書などにて生活、サービス利用を把握している。不明な点は入居後の会話などから把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	まずはご本人の普段の状態を把握することから始まり、バイタルチェックや食事摂取量、表情や言動の些細な変化を見逃さない様に努めている。また、週1回の看護師の訪問、随時相談により状態変化の早急な対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多角的な視点から物事が見られるようにホーム内研修では視点を大切にしながら内容でアセスメント能力の向上に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の気づきが多いが共有しきれていない点が課題。日々の申し送り表などを活用し情報共有ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2+3=□と考えるのではなく答えが5になる計算式を考える視点が持てるようにしている。可能性を決めつけるのではなく何を支援すれば出来るようになるかを前提に考えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人本部に近いこともあり法人のネットワークや指導者間のネットワークを通じて相談している。多様なニーズに対応できるように各専門職の知識をお借りし、地域資源を活用できるように考えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはホームの協力病院をかかりつけ医として紹介させていただいている。ご本人やが家族の要望に応じてどの医療機関でも受診できるように支援させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部看護師が1週間に1度訪問している。緊急時には本部看護師はもちろん、近隣医の救急外来に電話相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	入院時には介護サマリーを作成し情報提供している。ご家族や病院関係者と連携し早期退院の調整や情報交換を行うように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で延命治療に関する意思確認を書いて頂いている。また入居者の状況も多様化している為、状況に合わせた同意書も作成している。身体的に重度になってきた場合には特養申し込みをお願いしている。また、入院になった場合などには退去の要件などをしっかりと説明するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて心肺蘇生法を実施。また、急変時の兆候やその時々状況に応じて注意すべき点などを看護師の訪問時に確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの整備を行うために防災担当職員を設置。風水害も含くめたマニュアルも完成した。年3回を目標に災害避難訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースに職員が合わせ、利用者のプライバシーを損ねるような対応は行っていない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の活動、会話全てにおいて個々の利用者に合わせて分かりやすく説明し、利用者の意向を大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペース、生活を大切にし、安全にそして希望に沿った支援が行える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は希望者の意向に沿って行っている。また、希望に合わせて近くの理容室、美容院に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が付きサポートしている。食材の下処理や配膳、テーブル拭き、食器洗いの手伝いなどをして頂いている。また、メニューに季節の旬のものを採り入れ召し上がって頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食一人ひとり記録している。また水分摂取量においても一人ひとり把握し、好きな飲み物を提供し1日トータル量を確保するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	人いひとりひとりのコップ、歯ブラシを用意し、毎食後声かけや職員介助で口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意を感じ無くなった方、あるいは見当識障害のある利用者にはトイレ誘導を行っている。また声掛けでわかる方にはご本人と時間を決めて声掛け誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続く方には牛乳やヨーグルトを提供したり、野菜や水分量を増やしたり、散歩など適度な運動を進めるなどの工夫をしている。また医療機関で下剤を処方して頂く等している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を希望される方には入浴していただいている。入浴したいと訴えの無い方には声掛けをしているが無理強いはず、出来利限り本人の体調に合わせ、希望する日、時間に入浴していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、ペースを大切に、落ち着ける場所で休息が取れるようにしている。不安感が強い時は側で寄り添い、傾聴するなどマンツーマンの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療情報ノート、内服薬情報のファイルを作成し利用者一人一人の薬の情報が直ぐ分かるようにしている。また、薬の変更があった場合は職員全員に分かりようにし利用者の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中の出来る事はご自分で行って頂き、声掛けで家事仕事なども手伝って頂いている。また、散歩の好きな方とは散歩に出かけ、甘いものが好きな方にはお菓子の提供をするなど個別にも行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の時間を設け、気分転換を図りたい方には声掛けをし外に出る機会を設けるようにしている。また散歩の時間以外にも希望を聞きながら外に出る機会を増やすようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々利用者がお金を管理する事は困難であるが、ご本人の希望に応じて職員や家族と共に買い物をして頂くように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてホームの電話を利用して頂けるようにしており、職員が随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にはソファがあり絵画やカレンダー、季節の花を飾るなどしてくつろぐことの出来る空間作りをしている。また浴室横の脱衣所の湿度管理には冬は暖房器具、夏は扇風機を使用し気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには利用者一人一人の決まった椅子がある一方で、ソファなどを配置し、気分の合った利用者同士で座って話が出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には居室にはご本人が使用してきた物や好きな物を置いて頂くようにしている。状況に応じて危険や混乱が伴うような場合には家族と相談のうえ、持ち帰って頂く等配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに「トイレ」と大きく表示したり、居室のドアに名前を表示している。また、リビングの椅子に馴染みの座布団を置いて分かりやすくしている方もいる。混乱が見られる場合はさりげなく介助が出来るようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 泉の郷

作成日

平成29年8月30日

〔目標達成計画〕

(ほほえみ)

(のぞみ)

(ふれあい)

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	アセスメントの視野が狭く、 事象をそのまま受け止めてしま う	言動に意味を考え、ニーズを 的確に把握し支援につなげら れる	①定期的な勉強会によるスキル アップ ②0JTやミーティングを通じて 考え方の基本を身につける	1年
2	27	気付きは多いものの支援に結 びつかないことがある	気付きや予兆行動からこの先 どうなるかを考えて支援でき るようになる	①定期的な勉強会によるスキル アップ ②0JTやミーティングを通じて 考え方の基本を身につける	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。